

日本の労働組合も既に十数年の過去を有するに至った。しかるにその障害を見るに数知れぬ小黨分立の有様にて、強固なる組合の基礎、堅実なる運動の發展は等閑に附せられてある。

之れ惟小に労働組合の健全なる發達を無視して、單に急激なる社會変革を空想せる一派派は一城一廓的獨白路による小黨分立の對立が、現下労働組合の合理的組織の發展を阻害してあるものである。かゝる現象は僥倖に堪えざる虞であり、また深く反省し眞實の道を直進するは運動に従事するもの、當然の責務と信ず。故に志を同じふする人士と共に各組合當面の問題たる研究、調査進んでは教育に以て堅実なる労働組合の發展を助長し、次第に全日本の労働組合の組織を整備し、社會改造の正しき一大労働軍を進ましめんとする意圖を以て京濱労働協會を設立せんとするものである。

而して機關雜誌『労働運動』を刊行し、十二月十六日には、折柄承朝中のアルベルト・トーマ君を芝場調會館に招いて廣闊的懇談會を催した。

昨年五月、全國大會當時、總聯合所屬組合數は二十二組合であつたが、関西聯合會に所屬せる関西メリヤス工組合、金庫工組合、食糧労働組合、大阪製缶工組合の四團體は七月無條件合同を断行し、大阪一般労働組合を組織した。従つて組合數は十九組合に減少したが、組合員數は及つて二十九パーセントの増加を示してゐる。而して産業別に觀察すれば、関東方面は殆んど金屬産業にして、関西また尠なからざるを以て、金屬産業が第一位にて過半数である。續いて雜工業、電氣、硝子、皮革、纖維、木材、印刷の順序である。而して纖維産業の組織運動は全國的に上昇を示してゐる。

その後、関西聯合會の發展とその統制上、大阪聯合會組織の必要迫まり、九月、之れを結成せしめた。